

P38 ショー |

出血していないか確認

意識があるか確認

打ちどころによっては重傷か軽傷かをみる。

上司を呼んで医者につれていく。

・ 声掛けをしながら、ケガはないか確認する。

・ 他職員にも知らせる。

・ ケガがあった場合は止血や冷やす等、対応する。

・ 遊具の確認

・ ケガの具合によって救急病院等へ連れて行く。

・ けさるうずに呼吸・出血の量の確認。

・ 近くにいた先生に状況を聞く。救急車の手配

・ 積極的に「大丈夫」と声掛けをする。

・ 声を掛ける

・ どこをケガしたか確認する。

・ 周りの方にもどんな様子だったかきく。

- ・うつりやすい病気
- ・沢山のウイルスの型がある
- ・インフルに比べて死者数は少ない
- ・まだ未知の部分があるので不安
- ・ワクチンが^{打った後}今後どのように^なっていくのか、不安がある

- ・感染力が強い
- ・症状がない人もいる
- ・重症化するリスクがある

- ・感染力が強い
- ・持病を持っている人が感染すると重症化しやすい

かぜの症状に近く、
症状が軽い人もいれば、
重症になってしまう人も
いる。

演習1

- ・視診をし、怪我の状態を確認する
- ・声掛けをし、痛いところがないか
聞くことは本人から聞く。
- ・落ちた状況を確認する。
安心できるような。

- ・安心できるよう優しく声をかけながら動かさず状態を見る。
- ・周りの職員に声をかけ看護師を呼んでもらう。
- ・他の子どもたちを他の職員にお願いする。

子どもの状態を確認して、けが
の具合を見ながら動かす~~か~~
どうかをみてあげて職員室へ
連れていく！その時の状況を本人や
周りの人に聞く。

- ・ごめん
- ・うん
- ・ごめん

声を掛け
様子を見る
→ 重いか
どこが痛いのか

近くで誰か
見ていたか話をきく

けががないかを見て
けががある場合、
看護師に知らせる

- ・怪我をしているか確認する。
すり傷などは水で洗い流して
バンソウコウなどはる。
出血が止まらない場合はハン
カチなどでおさえる。

遊具からの転落

現状把握 どれに？

- 怪我の具合を見る(骨折
打撲)
- 園長に知らせる
- 様子を見て保育者に知らせる
↓

- ・外傷の確認
- ・腫れて痛むかどうか
- ・本児、又は近くにいた子にどの時の
(保育者)
状況を確認する
- ・近くの保育者(担任)への応援

- ・意識があるか確認する
(目、呼吸、手を握る、声掛け)
- ・出血があるか
どこが痛むか
- ・周囲の子を安心させる
- ・看護師、または急救車

らせんすべり台からいきおい
取すべり、落ちて車云がって
いる。
近くにいた保育者、本人
周辺の子から状況をきく。
痛がってる箇所の確認。

- ・ケガの状態の確認
- ・どうして転落したのか
- ・周りの子への対応
- ・ケガへの対応
(状態によっては電話)

子供の近くに行き声を
掛ける。

看護師さんと呼び状況を
話し子供をみてもらう

- ・出血しているなら止める
- ・どこを打ったか知らせる
- ・親に連絡する
- ・救急車を呼ぶ

- ・痛みがあるか、どこが痛いのか
等子供に聞く。
- ・抱っこをして、落ち着かせる。
- ・子供の体をよく見て、外傷
がないか確認する。
- ・他の先生(上の先生)に様子を
伝える。

- ・どこが痛いのかをよく
観察する(出血などないか)
- ・落ちた遊具の高さを確認する
- ・他の職員を呼び、^{保育者から}抜けること
を伝える
- ・悩んだら園長に相談していい。
^{必ず}

- ・ケガの場所を確認する。
- ・どこを痛がっているか聞く。
- ・会話がしっかりできるか
確認する。
- ・病院へ行くかどうか
判断する。

コロナについて知っていること

- ・予防接種しても、かかる
↳重症化を防ぐだけ
- ・味が感じなくなる
- ・のどが痛くなる
- ・咳の後いしやう
- ・熱(高熱)
- ・無症状の人もある。

感染力が強い
発熱、風邪症状のような症状
があらわれる。
マスクで飛沫を防ぐ。

- 大人子どもとも感染する
- 接触での感染
- 後遺症があるといわれている
- 症状について、
味覚障害、発熱、けいれん、
咳
→ 無症状の場合もある

- ・ 飛沫感染
- ・ 自己免疫機能が大切
- ・ 重症化しやすい高齢者
基礎疾患を持つ人に注意
- ・ マスク着用、状況に応じてする
- ・ 咳、頭痛、だるさ、発熱など

症状がないものもある。
感染力が強い
風邪症状と同じ為
判断が自分では絶対できない
PCRと抗原検査は異なる

転落時の対応

演習1

頭を打っていないか確認
↓
・ 打っていたら動かさない
・ 打っていなかったら、
どこを打ったかどこが痛いかに
きく
↓
それに応じた対応
消毒、冷やす etc...

・ ケガをしている場所はあるか、
・ 顔色表情はどんな様子か、
・ 他見えているかどうか
・ 落ち着かせてから対応する。

- ケガの症状を確認
(出血があるか、頭を打ったのか、
など)
- 動かせるようであれば、
安全な場所に移動し、
処置してもらう
- ケガがなせなかったのか、
話をきいたりする。

子どものケガの具合を確認
顔色や泣く様子も確認
どのように転落したのか
(足からなのか、頭からか...
高さ)
子どもの怖かった、痛い気持ちに
寄り添う。

どこを打ったか、出血はないか
ある、冷やすものや止血できる
ものをすぐに用意する
近くで遊ぶ子に注意を
うながす。

どこを打ったかを確認する
（体の状態をみて冷やした
り休めたり、症状が
ひどいときは病院へつれて
いく。

・名前を呼ぶ（た）。
声かけで意識があるか
確認する。

・動かないで怪我か
ないか目で見える。

- ・話ができるか
- ・声かけ、おろつかせる。
- ・全身状態の観察
- ・傷があれば止血。
- ・嘔吐や意識レベル。
- ・場合により、QQ車

{ 栄養士
調理士

アレルギー食・アレルギー食・
行事食 etc..
味・アレルギー・量などの相談

- ・ 保育士
- ・ 看護師、助産師 (病児、ケガの対応)
- ・ 保育補助 (保育のサポート)
- ・ 管理栄養士、調理士
(食育について.)

・ 栄養士
・ 調理士
・ 看護師

・ ~~栄養~~のあるお話を
・ 怪我や病気の時などに正しい
合った処置を教える

・すぐに動かさず、他の
保育士と呼び、状況を
確認する。

・本人が話せるようなら
どこが痛いのかを確認する。

- ・声を掛ける
- ・外傷がないか確認。
- ・子どもに聞く。(痛い場所)
- ・~~負傷者の確認~~

他の保育者を
呼び。

無理に動かさず
その場で声を掛けて
様子を確認する。

すぐに看護師を呼び、
見せよう。
看護師の指示に
従う。

- ・外傷のみに
- ・周囲の先生に状況のみに
- ・落ちつけるように声をかける。
- ・落ちいたら痛む場所を確認
- ・状況がわからない場合は
カメラを確認 すぐにはいい時

演習1

- 症状の重さが人によって違う。
- 無症状の人もある。

- 重症化すると命を落とすこともある。

- 型がちがうと何回もかかる。

-

- 発熱、咳、倦怠感などの症状
のどの痛み

- 無症状の場合もある。

飛沫感染、空気感染

0俣かニ痛くなる。熱

型がちがうとまた感染する。

- 症状が出ていなくても、
保菌している人は感染する。
（せしきん）

- 飛沫感染する。

- 型が違えば何回もかかる。

-

- 治療法(薬)が確立されていない。

- 感染力が強い。

- 2類感染症に指定されており登園ができない。

- アルコール消毒が有効

- ワクチンが有効か？

- 後遺症が残ることもある。

- ・看護師 → けが、病気の対応
- ・言語士 → 美味しいご飯
- ・バス(運転士) → 園外につけていく
- ・管理栄養士 → 栄養のバランス

- ・栄養士、栄養管理されているメニュー
- ・調理士 → 食べやすさの工夫

- 看護師 → 病児対応、内服等管理
- 調理士 → 安全な給食の提供
- 管理栄養士 → 栄養バランスのよい給食の提供
- 医師 → 園児の健康管理、異常の早期発見
- 歯科医師 → “
- 発達支援員 → “
- 薬剤師 → 薬剤の管理、プール塩素
- 体操、ダンス、水泳、英語インストラクター
- 専門活動のインストラクターとしてわかりやすい指導

- ・看護師 → 子どものけが、健康やんり
- ・栄養士 → 子ども栄養管理
- ・保育業者 → 環境作りをする
- ・体操、和太鼓講師
- ・警察官、消防士
- (交通安全等)

- ・園医 (医師、看護師)
- ・歯科衛生士
- ・保健士
- ・警察官
- ・消防士
- ・栄養士
- ・スクールサポーター
- ・体操の先生
- ・保育業者
- ・牧師
- ・バスの運転手

演習 1

- 頭部にはよく
- 手関節
- 肘にはよく
- 肘関節
- 足にはよくない
- 足関節
- 股関節

動かしずくに声封付
とんが痛ふかなど聞く。

- ・すくに子どもの様子(状況)
ケガの状態を確認する
- ・他の職員を呼ぶ
- ・救急車を呼ぶ

- 骨折や頭を打っていないかなど 外傷確認をする。
- 大丈夫かなど 声かけをする
- 意識なければ"救急車"

- ・ 園医に電話
- ・ 見えるヶ所を確認
- ・ 動かさず そのまま安静にする。

- ・名前を呼び反応があるか確認
- ・体には触れず、自分で立ち上がるよう促す

- ・声をかける
- ・他の先生を呼ぶ
- ・遊具のそばから離れ
- ・安全な場所へ移動する
- ・体の様子 けが、打撲や動かせるかを
確認する
- ・他の園児が近づかないよう
声をかける

- ・他の先生に助けを
求める.
- ・出血がないか、痛
い場所の場所を
はあくあそ.
- ・意識があるか
確認

- 出血がある場合は
動かさずガーゼでおさえる
- 第一に落ち着かせる
- 話せる場合は状況や
どこが痛いかな聞く。

演習 1

演習 1

- ・熱、咳などの症状
熱は40℃ほどでる人もいる
- ・無症状の人もある
- ・人が集まっている場所で
感染しやすい

発熱 咳 のど痛
ハア水 嘔吐 など...
症状がいろいろ
何度もかかる

- ・子どもに声をかけ、痛いところ
を確認。
- ・全身観察
- ・頭? 骨折? 捻挫?

- まず近くの先生に知らせる
- 声がけしなからけがの様子
を見る
- 打ち場を

○声を掛け、けがの状況を確認

○

- ・「大丈夫だよ」と声をかけて
安心させてあげる
- ・どこを打ったのか聞く
- ・出血の確認
- ・顔色を見る

調理師 ↓ 子どもの食事をつくる
栄養師 ↓ 栄養のこと、たんぱく
看護師 ↓ 子どもの体調が悪い
際の対応

園医 ↓ 健診
栄養士 ↓ 栄養管理
看護師 ↓ 健康管理

プールの外に遊び、意識
があるか確認、声掛けを
する。

本人に声を掛け意識が
あるか確認する

他の職員に声を掛け
来てもらう (看護師)

担当しているクラスの子ども
達の避難誘導をする。

保育園の前に入きい用水
路がある為、大雨が
降った際、洪水の危険性
がある。